



アジア未来学校便り

## 小学校へ通いはじめた子どもたち

カンボジア事務所所長 安田理裕

～目次～

アジア未来学校便り	1
総会報告	3
国際協力フェスティバル	
アジア文化会館フェスティバル	
懇話会	4
第一回日韓事務局会議	6
スタッフ紹介(1)	
決算・予算報告	7
スタッフ紹介(2)	8
事務連絡	

今年の雨季もそろそろ終わりといったところですが、幸いなことに、今年には昨年のような水害もなく無事に(?)乾季を迎えることができそうなアンロンコン・タマイ村です。

### 未来学校と小学校との関係

10月1日、カンボジアの小学校や中学校では2004年度の始業日を迎えました。アンロンコン・タマイ村の隣村、ブラッカー村にあるルセイサン小学校でもこの日始業日を迎え、学校は久しぶりに元気な子どもたちの姿で賑わっていました。

この小学校は、アンロンコン・タマイ村やブラッカー村の子どもたちが通う小学校で、未来学校での授業を終えた子どもたちもこの学校へ「進学」させることになっています。

未来学校は教育・青年・スポーツ省による識字プログラムをおこなう識字学校で、最低限の読み書きと算数を教えますが、それ以上の教育となるとやはり小学校へ通う必要があります。

日韓アジア基金では未来学校を出発点として、ここで学んだ子どもたちの、この小学校への編入を重視してきました。小学校への編入は、より多くの子どもたちができるだけ長い間教育を受けることを意味しますので、大切な目標と言えると思います。

日韓アジア基金は、この目標の実現に向けて、これまで同小学校への図書設備の寄贈、塀の建設をおこなってきており、現在も「水と大地と緑の会」から支援金をいただき、ドアや窓の補修を進めています。

これらの事業には学校設備の充実、安全性の向上という側面もありますが、同時に楽しい学校づくり、子どもたちが通いたいと思える学校づくりという点も強く考慮して行ってきたものです。例えば、塀の建設では、建設後の塗装作業に子どもたちも参加し、手形を葉っぱに木のペインティングを行いました。



ルセイサン小学校



始業式を迎えた元気な子どもたち



寄贈された図書設備

自分たちが参加することで、学校が自分たちのものであるという意識も生まれるのではと考えたからです。

また未来学校でも、特に規定の識字プログラムを終えた子どもたちに、学校へ行くことの大切さを話し、小学校へ通うにあたっての不安な点、分からないことなどを子どもたちと話し合ってきました。こうした結果もあってか、9月末の時点では20名ちょっとの子どもたちが、小学校へ転入したいと話そうになっていました。



手形を葉っぱに見立てた木のペインティング

## ルセイサン小学校への編入はじまる

そして迎えた10月1日。ルセイサン小学校に行って、校長先生以下職員の方々とも子どもたちの登録状況について話し合いました。その結果、事前に考えられていた数を大きく上回る33名の子どもたちが小学校への編入手続きを終えたことが分かりました。編入者はその後も増え続け、10月22日現在で約50名の子どもたちがルセイサン小学校への編入手続きを済ませています。昨年度の同校の登録児童数が407名ですので、これをもとに考えると約1/8の児童が未来学校出身者となります。

嬉しいニュースですが、手放して喜んでばかりはいられないのも事実です。カンボジアの小学校では、出席率の低さや退学率の高さが問題になっています。今後は、この子どもたちが継続的に小学校へ通っていけるようにフォローしていく必要があると考えられます。

## 未来学校のいま そして村人とのつながり

小学校始業後の未来学校の状況ですが、現在は4クラス体制となり、朝の2クラスが識字教科書の1冊目(全4部構成)を、午後の2クラスのうち1つが小学校3年生のクメール語と算数、もう1つが識字教科書の3冊目を勉強しています。9月からは、各児童の情報シートを作成し、それぞれの家庭環境などについても細かく把握できるように努めています。情報シートの作成に際して家庭訪問も行いますが、これが父母との繋がりを強め、地域における教育への理解を深める効果をもたらすのではないかと期待しています。



小学校に入学をすすめるポスター

感謝の言葉をいただきました。先月のある日の晩、学校に泥棒が入る事件がありましたが(幸い被害はありませんでした。)それに関しても、こうして日韓市民の協力で学校ができたのだから、村の住民として責任を持って管理を積極的に行っていきたいという力強い言葉をいただきました。

ルセイサン小学校を訪れると、未来学校の卒業生たちは、私やリティを見つけて笑顔で駆け寄ってきます。早速、新しい学校で熱心に先生の話聞き入り、一生懸命にノートを取っていました。村人の言葉や、こうした子どもたちの姿を見るにつけ、私たちの活動が実を結んでいるのだと強く感じられます。

9月に、アンロンコン・タマイ村の村長や村の有志に誘われ、村で夕食をご馳走になる機会がありました。私が村を最初に訪れてから丁度2年になりますが、この2年の間に村の状況がよくなった、特に多くの子どもたちが学校へ通えるようになり、それが村の活気に繋がっていると、村長さんや未来学校の生徒のお父さんなど多くの方から



熱心に先生の話聞き勉強する子どもたち

## 総会報告

平成 15 年度の年次総会は、9 月 23 日(祝)午後 1 時からアジア文化会館で開かれました。

スタッフを含め 13 名の出席者を得て、高橋事務局長の司会で始まった会は、まず現在中国の上海に滞在している禹代表のビデオでの挨拶が披露されました。禹代表は、この 1 年の皆様のご協力と日本支部の活動に感謝するとともに、遠く離れていても心は常に皆と共に在り、アジアの支援を必要としている人々のために今後も地道に頑張りたいと、決意を述べました。続いて江本代表理事が挨拶した後、規約の変更点の説明と審議、一部役員の辞任と新役員の選任、新役員の紹介がおこなわれました。又 15 年度の事業報告、会計報告、アジア未来学校の近況報告、さらに 16 年度の事業計画案、予算案が提案され、いずれも提案どおり全会一致で承認されました。

おかげさまで当基金は、8 月には韓国から事務局メンバーを迎えて懸案の日韓事務局の初会合を開催、現地カンボジアでの未来学校も地元の信頼を得て着実に成果を挙げています。今後も資金面を初め予想される様々な困難を、皆様のご協力を得て乗り切りたいと思います。

### 「日韓アジア基金(日本)」を「特定非営利活動法人 = NPO 法人」化へ

当基金では、カンボジアでの活動の円滑化のためにも、従来から「特定非営利活動法人」の資格を取得することを課題としてきましたが、今回取得のための環境が整ったとの判断から、設立認証申請書を東京都知事に提出することにしました。そのための設立総会を、10 月 16 日にアジア文化会館で開催し、設立に向けての諸事項を審議、決定いたしました。会員の皆様には先にお知らせしましたように、会員資格に若干の異動が生じますが、基本的には特に変わる点はありません。今後必要な書類を整えて 10 月中に申請し、来年 2 月頃の認証を目指す予定です。(荒川)

### 国際協力フェスティバルに初参加！！ 10 月 2 日・3 日 日比谷公園

国際 NGO などが集まるお祭り「国際協力フェスティバル」に、私たちも初めてブースを出しました。予想をはるかに上回る数のお客様が日韓アジア基金のブースに立ち寄り、活動内容の説明を熱心に聞いてくださいました。未来学校のかわいい子ども達の写真に見入っている方や、どうして「日韓」なのか不思議そうにしている方々とじっくりとお話ができ、とても有意義な時間を持てたと思います。今回はブースだけではなく、ワークショップコーナーでの発表の機会を得て、スタッフ希望者との出会いもありました。この「国際協力フェスティバル」には来年以降も続けて参加していく予定です。(千葉)

### アジア文化会館フェスティバルにも参加 10 月 23 日 文京グリーンコート桜の広場

当基金が事務所を置かせていただいているアジア文化会館のフェスティバルが開催されました。アジア各国の留学生の手料理、アジアの民芸品の展示会やバザー、特設ステージでダンスや民族衣装の披露など国際色豊かなイベントでした。私たちもブースを出して、活動状況の展示・説明と韓国のお茶(ゆず茶、梅茶、コーン茶)とお菓子の無料サービスをおこないました。アジア文化会館に在住・在学している留学生をはじめ、小さなお子さんから年配の方まで近隣の方々が 300 人近くも立ち寄ってくださり、多くの方に活動の説明をすることができました。また、11,582 円のご寄付も頂きました。今後も、こういうイベントに積極的に参加し、私たちの活動についてご理解を得たいと思います。(高橋)

## 懇話会 「日本で活動するアジア人の発言」



司会の菊地さん

9月23日、総会に続いて懇話会「日本で活動するアジア人の発言」を開催しました。韓国、中国、カンボジアから3名の講師をお招きして、日本で活動することで見えてきた日本の姿、自国の姿について講演していただきました。そして、韓国・中国・モンゴルからの留学生を含めた参加者全員が、テーブルごとに分かれて異なる文化の中での協働活動について話し合いました。

紙面の都合上、3名の講師の講演をすべて記載することができず残念ですが、講演内容の一部を紹介します。

### 「互いの違いを認めあいながら関心を持って友情を育てよう」

朴 昌鎬（パク チャンホ）氏：韓国人 男性 サムスン生命保険会社所属 短期駐在中

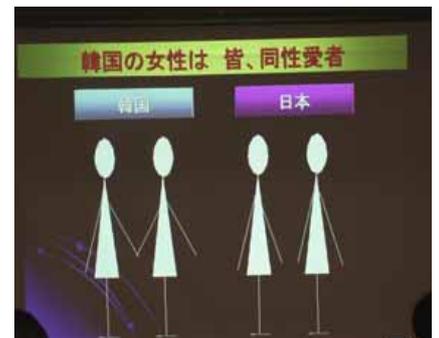


日本は我々韓国人にとって、一番近い隣国であるが、文禄の役や植民地などの不幸な歴史のため、日本に対するイメージは必ずしもよくはない。

私は日本に来て、韓国、日本を見つめなおした結果、これまでに気がつかなかった文化の違いに気がついた。たとえば鍋料理を食べるときに、日本人は自分の分を器にとって食べるが、韓国人は自分の箸やスプーンで鍋からじかに食べる。日本人は韓国式を非衛生的と感じるだろうが、韓国人は日本式を情がないと感じる。その他、ストレートに感情を表現する韓国人に対して、日本人はあいまいな表現が多い。このように文化に違いが見られるが、どちらかが悪いのではない。違いをたがいに知り、認めることが必要だ。

韓国人は過去の歴史について日本を非難するが、それは日本に愛情がある証拠ではないだろうか。反対に日本は韓国に対して無関心だったと思う。愛情の反対は憎しみではなく無関心だと思う。

不幸の歴史を繰り返さないためにも、関心を持ってお互いを理解ようとすることで友情を育てることが大切だと思う。



### 「私が見た日本」

王 嶺（オウ レイ）氏：中国人 男性 東京大学法学部4年 在日4年



私が見た日本について述べたい。

まず、日本はとても豊かな国だと思う。電化製品の質や食材も世界のトップクラスである。物価は高いが、高収入であるからだといえるだろう。このような恵まれた環境にある中で、日本の若者に自信がないように感じる。戦争の歴史を学んでいるうちに自らのアイデンティティに対するコンプレックスを覚えたのではないかとも思うし、近年の経済不況も影響しているかと思う。それに対して、日本のシニアは元気だと思う。60歳を過ぎても何かしらの仕事や活動に取り組んで

いる人が多いが、中国では還暦を過ぎたら老人になって休み始める人が圧倒的に多い。日本の壮年の人々は、とても急いでいる印象を受ける。

日本の社会文化について、まず、日本社会は安全で安定したよい社会だといえると思う。一方で高齢化・晩婚化・少子化の進行がかなり早い社会だと思う。また、日本はまさに文化大国といえる。漫画やアニメは中国にも輸入されているし、出版業界も発達しており、書籍の出版数はとても多く質も高い。ただ、テレビや新聞などのメディアには重複報道や偏重報道が多く、好感をもてない。私が見た日本を、まとめるような言葉はいらぬと思う。様々な複雑な感触と感情をまとめることはなかなか難しいので、私の意見を皆さんに聞いていただいて、日本を考えるとときの参考にしてほしい。

### 「日本の支援に感謝しつつ、カンボジア人も努力したい」

リム ソピア氏：カンボジア人 女性 看護師 在日22年

カンボジアでは、人口の95%が農業に従事している。稲作中心の農業で自給自足を旨としている。現在は平和になったが、農業生産が不安定で、都市の工業労働者との貧富の差が拡大している。その点、日本は発展が目覚しく、うらやましい。

日本で印象に残っているのは、日本の結婚式である。カンボジアでは式や披露宴に歌や踊りが入り、夜遅くまで延々と続くのだが、日本ではすぐ終わる印象である。

料理に関しては、日本の料理はしょうゆ味が多く、薄味で健康的。カンボジアはナンプラーや香辛料を多用した濃い味の料理が多い。

カンボジアと日本の関係では、技術移転や地雷撤去など日本から多くの支援を受けていることに感謝している。国民が安定した生活を送れるようになることが大切であるが、それには日本からの支援を待つだけでなく、カンボジア人も努力する必要があるだろう。カンボジアと日本がよりよい関係をどのように築くか、今後の私の課題としたい。



当日は、参加者がテーブルの上のお菓子やアジアのお茶を忘れてしまうほど、講師の方々の講演に熱心に聞き入っている姿が印象的でした。また、テーブルごとの討論も大変盛り上がり、時間が足りないと感じている人も多かったようです。

3名の講師の皆さん、懇話会に参加してくださった皆さん、ありがとうございました。(菊池)



## 第一回日韓事務局会議



中央がファン・ボギョンさん

8月28日(土)、29日(日)の二日間にわたり、日韓両国の事務局スタッフの意思疎通を計るため、表記会議をアジア文化会館で開催しました。当基金は日韓協働を謳いながら、今までメール交換以外には、一部を除いてスタッフの直接交流がなく、本件は兼ねてからの懸案事項となっていました。韓国事務局からファン・ボギョン、イ・ヨロのお二人が来日し、日本事務局からは11名が参加して、基金の活動目的の確認、お互いの活動状況の報告、アジア未来学校の現状と今後のあり方についての活発な討議を行いました。

通訳付きの会議に不慣れなため、一部議論のすれ違いや、事実関係の勘違いはありましたが、全体としてお互いの考えを理解でき、両国の今後の協働活動について具体的な内容を提案、確認できた非常に有意義な会議でした。今後も是非続けたいと考えています。(大澤)

### スタッフ紹介(1) 孫 始暎(ソン ション)



みなさん、今日は。

私は韓国の三星生命保険会社から今年4月日本語の勉強のために教育派遣された孫始暎と申します。私はここ東京で今年12月まで暮らしながら、日本語の勉強以外にも様々な日本の文化や習慣、そして日本人の生活ぶりなどを詳しく勉強したいと思っています。

私は日韓アジア基金に参加してまだ5ヶ月しか経っていないのですが、非常に素晴らしいボランティア団体で日本人の方々と一緒に活動する事ができて、本当に嬉しく思っています。

私がこの基金に参加したきっかけは、私の日本語の先生である千葉さんの紹介があったからです。何よりもこの基金のミッションがすごく私の心を打ったからです。それは、日本と韓国の両国の人々がお互いに手を組み、協力して、昔の歴史の壁を乗り越えようとする事でした。そして、その一環として、まだ経済発展が遅れているカンボジアというアジアの国の子供たちに教育の機会を与えるという素晴らしい教育事業をし続けているということでした。私にとっては、まさに韓国では考えたこともなかった、素晴らしいことをやっているのではないかと胸をわくわくさせられたのです。

私は、今からちょうど20年前にここ東京で2年半ぐらい住んだこともあって、日本はあまり外国のように思っていまじましたが、やはり両国の間には昔の不幸な歴史という壁がありまして、今も多くの人々から「遠くて近い国、近くて遠い国」という言葉がよく聞かされています。しかし、このように両国の人々が、特に若者たちがお互いに協力して昔の歴史の壁を乗り越えようとする努力をし続ければ、将来いつかは必ず両国がアジアの平和や経済発展のために重要な役割を果たせるのではないかと、私は固く信じております。

これからもどうぞよろしくお願い致します。

平成15年度 日韓アジア基金(日本)とカンボジアプロジェクトの収支報告および  
平成16年度 日韓アジア基金(日本)とカンボジアプロジェクトの収支予算

平成15年度 日韓アジア基金(日本) 収支報告

(平成15年7月～平成16年6月) 単位 円

収入の部		支出の部			
費目	金額	費目	適用	金額	
前年度繰り越し	649,259	事業	カンボジアプロジェクト	2,210,000	
会費	750,625	業	通信運搬費	カンボジアへの電話代	70,009
寄付	1,919,930	費	広報費		105,748
イベント収入	29,215	費	小計		2,385,757
雑収入	18,000	管	会議費	室料	29,000
		理	旅費交通費		5,000
		費	通信運搬費	国内通信費	19,670
			消耗品費	事務用品	17,837
			図書資料費		1,790
			教育研究費	研修受講料	10,000
			小計		83,297
			合計		2,469,054
			次年度繰越		897,975
収入合計	3,367,029	支出合計		3,367,029	

- ・大口寄付内訳 株式会社 東設土木コンサルタント様 300,000
- 聖公会川越キリスト教会様(株式会社 萬富様) 250,000
- 大阪住吉ロータリークラブ様 250,000
- 株式会社 スリーエーネットワーク様(法人会費) 100,000

- ・広報費はニュースレター、パンフレットの用紙代、印刷費、送料及びホームページサーバー使用料である
- ・総支出の内カンボジア関係が93%を占める
- ・事業費対管理費は97対3である。

平成15年度 カンボジアプロジェクト 収支報告

(平成15年7月～平成16年6月) 単位 \$

収入の部		支出の部	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越	843	人件費	12,105
日本支部負担分	19,217	会議費	129
韓国支部負担分	3,714	旅費交通費	994
寄付	3,298	通信運搬費	1,747
雑収入	165	自家用車費	2,305
		消耗品費	194
		施設修繕費	307
		印刷費	272
		水道光熱費	966
		地代家賃	2,500
		備品	87
		図書資料費	127
		雑費	68
		租税公課	345
		設備費	4,498
		小計	26,643
		次年度繰越	594
収入合計	27,237	支出合計	27,237

平均為替レート(送金手数料含む) 115円/\$

- ・水道光熱費、地代家賃は現地職員の住居兼事務所のものである
- ・設備費内訳 アジア未来学校国旗掲揚台  
ルセイサン小学校塀及び本棚
- ・韓国支部負担分には、ソウル中央ロータリークラブ様からのご寄付2,273ドルを含む。

平成16年度 日韓アジア基金(日本) 収支予算

(平成16年7月～平成17年6月) 単位 円

収入の部		支出の部			
費目	金額	費目	適用	金額	
前年度繰越	897,975	事業	カンボジアプロジェクト	2,242,500	
会費	750,000	業	通信運搬費	カンボジア向け電話代	50,000
寄付	880,000	費	広報費		120,000
		費	小計		2,412,500
		管	会議費	室料	29,000
		理	通信運搬費	国内通信費	20,000
		費	消耗品費	事務用品	18,000
			図書資料費		2,000
			教育研究費		10,000
			小計		79,000
			合計		2,491,500
			次年度繰越		36,475
収入合計	2,527,975	支出合計		2,527,975	

- ・会費は前年並み、寄付は前年実績から大口寄付、及び本年度は期待できないものを除いた。
- ・広報費は前年比ニュースレター一回増刊を見込んでいる
- ・その他の管理費は前年並みとした
- ・カンボジアプロジェクトの金額2,242,500円は右の表の「日本支部負担分」19,500ドルを為替レート115ドル/円(送金手数料込み)で算出した。

平成16年度 カンボジアプロジェクト 収支予算

(平成16年7月～平成17年6月) 単位 \$

収入の部		支出の部	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越	619	人件費	11,100
日本支部負担分	19,500	会議費	130
韓国支部負担分	1,200	旅費交通費	1,000
雑収入	165	通信運搬費	1,750
		自家用車費	2,300
		消耗品費	200
		施設修繕費	300
		印刷費	300
		水道光熱費	750
		地代家賃	2,520
		備品	100
		図書資料費	130
		雑費	100
		租税公課	750
		小計	21,430
		次年度繰越	54
収入合計	21,484	支出合計	21,484

- ・必要経費から確定収入を差し引いたものを日本支部負担分とした。
- ・支出に関しては、現地化により変化する項目以外は前年度並み。

## スタッフ紹介(2) 朴 昌鎬(パクチャンホ)

私は韓国の保険会社の営業マンです。日本には会社の研修の一環として今年4月に参りました。知り合いの千葉さんの紹介で基金に参加させて頂くことになりました。

私は1996年に大阪大学に交換学生で行ったことから日本に関心を持つようになりました。私には1991年からいまままで、13年間付き合いを続けている日本人の友達があります。日本人は友達づきあいの相手ではなく警戒すべき隣人だという認識が、これまでの韓国の既成世代の大多数の気持ちだったと思います。しかし、世界はどんどん変化しつつあり、韓国と日本は生き残る為に互いに協力しないと明日が見えないと思います。多くの人々が互いに協力すべきであるという漠然とした必要性は感じながらも、言葉ではっきり言いあわせない壁にぶつかってしまった経験があるのではないのでしょうか。私はこの基金に参加することによって、漠然としていた交流や協力の必要性を、具体的・実践的に実現できるのではないかと思います。それができるからこそ日韓アジア基金は間違いなく魅力的なのです。

### 日本サムスン株式会社に募金箱設置

サムスン生命保険会社から研修のため日本に来ている孫・朴が発案して、日本サムスン株式会社の事務室に募金箱を置かせていただきました。この会社では、これまでカンボジアの地雷撤去作業に、法人として寄付をしてきていますが、社内での募金箱設置は初めてです。

### 事務局長交替

事務局長が高橋政行から松田啓志に替わりました。

(「韓国の暮らしあれこれ」は、紙面の都合上、休みました。)

### 04年6月～9月に会費・ご寄付を下さった方(敬称略・五十音順・最下欄を除く)

阿南 系代	尾崎 格	下村 紀雄	孫 始暎	中村 節子	樋口 晴太郎	堀内 和子	満井 啓二	八坂 涼子	渡部 友里恵
井戸端 裕子	加瀬 千奥	白井 亘子	田野辺 隆男	中村 雪武	樋口 督水	堀内 和子	南 康雄	柳田 文子	渡部 澄江
牛島 暁子	片岡 彩子	城田 実	佃 吉一	那須 和相	平島 清行	前島 盛一	宮本 直実	山崎 杜子	
禹 守根	栗田 瑞枝	鋤柄 慎吾	中川 敦司	並木 陽子	藤井 恵子	増田 恒子	村橋 由美子	リム ソピア	
大澤 龍	国分 絢子	鈴木 英	中島 智代	朴 昌鎬	藤原 忠厚	松田 明美	森 健造	和田 洋一	
小川 昭子	桜井 靖子	曾根 文子	中村 早苗	波多野 淑子	古川 和子	三浦 知栄子	薬師 金弥	渡辺 京子	
聖公会 川越教会 (株式会社 萬富)			聖公会 川越教会 献金			不二聖心女子学院		水と大地と緑の会	

### ご入会・ご寄付のお願い

学生会員 : 年会費1口2,000円 何口でも  
 一般会員 : 年会費1口5,000円 何口でも  
 法人会員 : 年会費一口10万円 何口でも  
 ご寄付 : 2,000円以上おいくらでも

< 郵便局振替 口座番号 >  
 振込口座 00180-2-25153  
 日韓アジア基金

会員及びご寄付頂いた方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。

### < お問合せ先 >

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2 12 13 アジア文化会館内

Tel: 03 - 3946-7565 FAX: 03 3946 7599

E MAIL : [iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp](mailto:iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp) URL: <http://www.iloveasiafund.com>